

モモの病害虫の発生状況（5月中旬） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生ほ場割合（5月上旬、中旬）は、平年並でした（図1）。

新梢葉での発生ほ場割合（5月中旬）は、平年よりやや低い状況でした（図2）。

今後、梅雨期を迎え、発生が拡大するおそれがあるため、り病部（枝、葉、果実）のせん除を徹底するとともに、本病の発生が多い場合は仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけましょう。

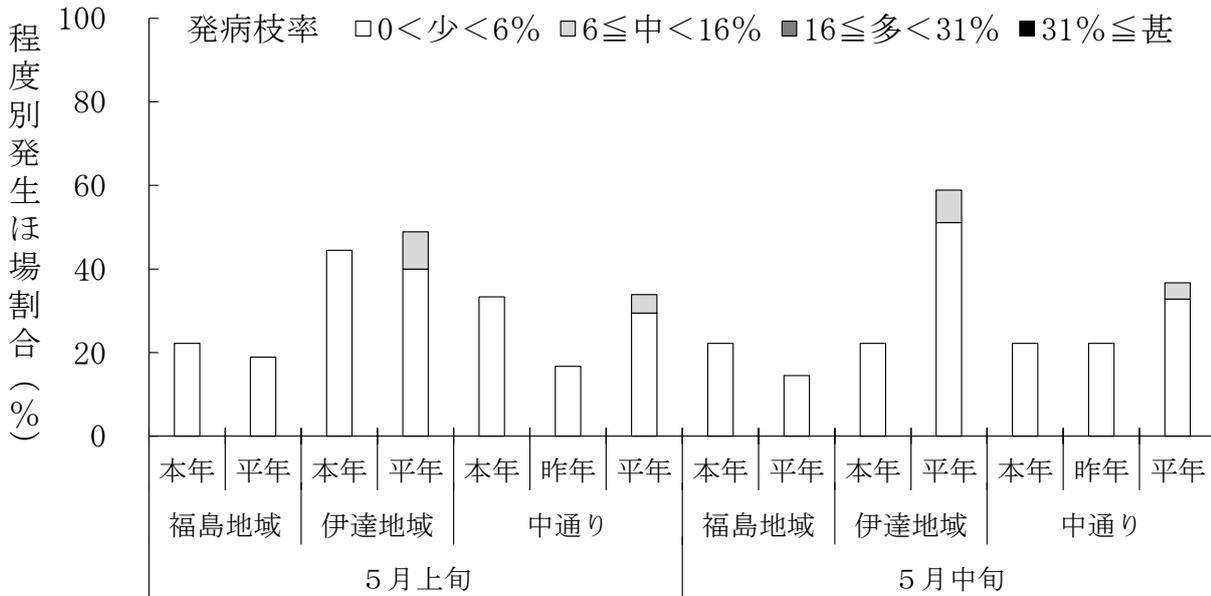


図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生状況（5月上旬、中旬）

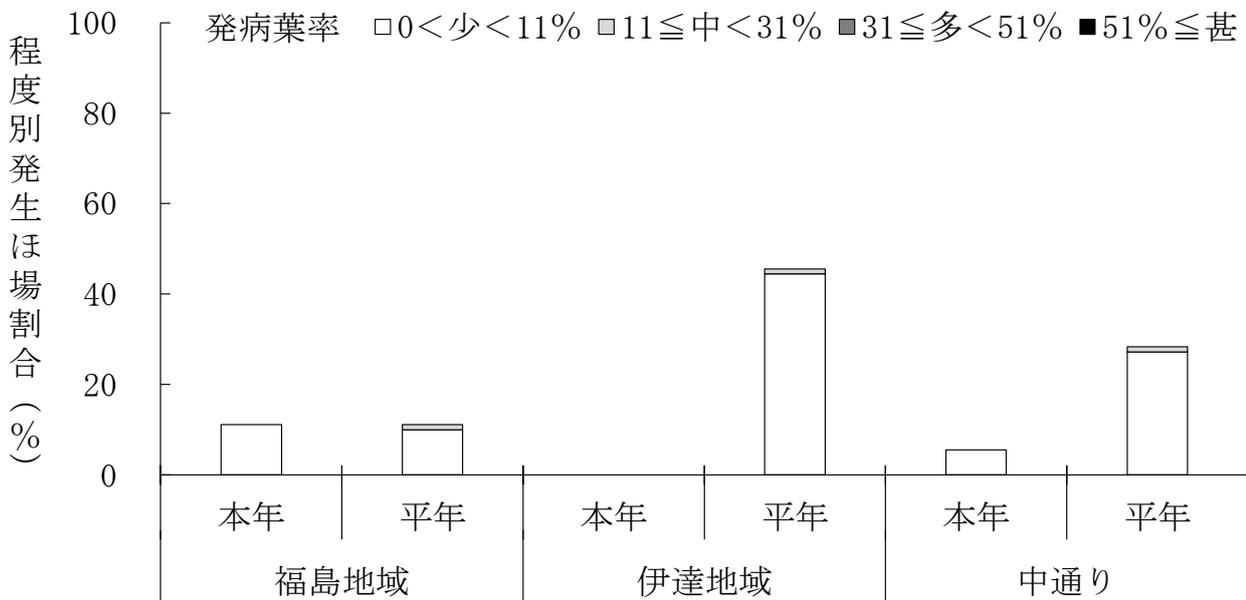


図2 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（5月中旬）

(3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。

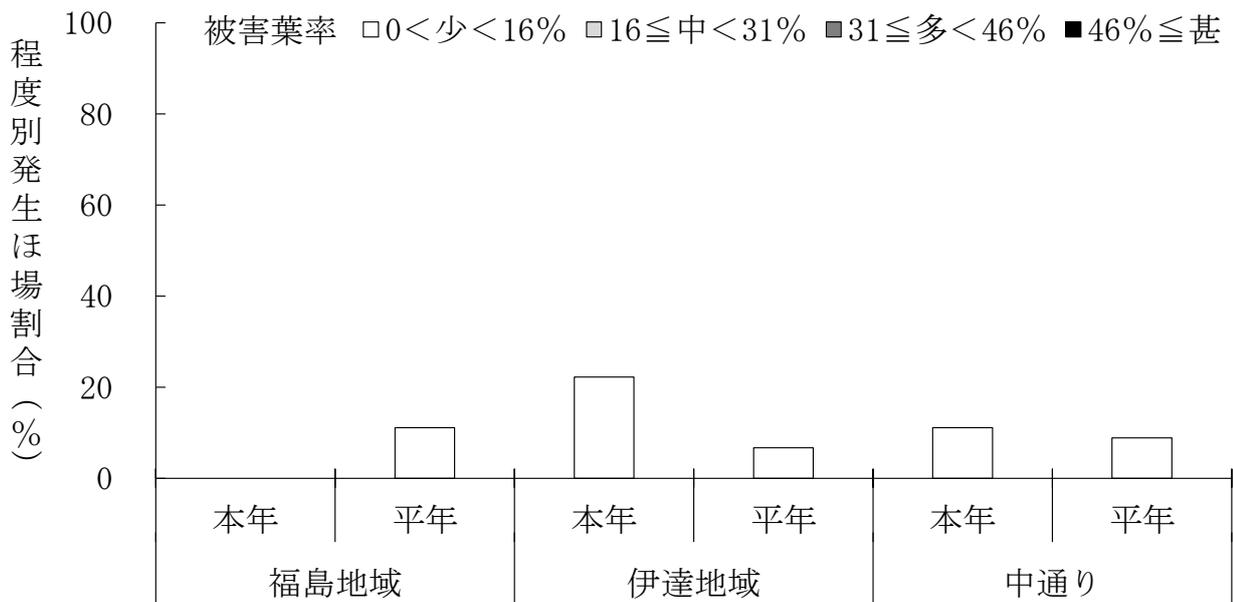


図3 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（5月中旬）

(4) アブラムシ類

新梢への寄生は、確認されませんでした。

(5) ハダニ類

一部のほ場で、クワオオハダニの発生がみられました（図4）。

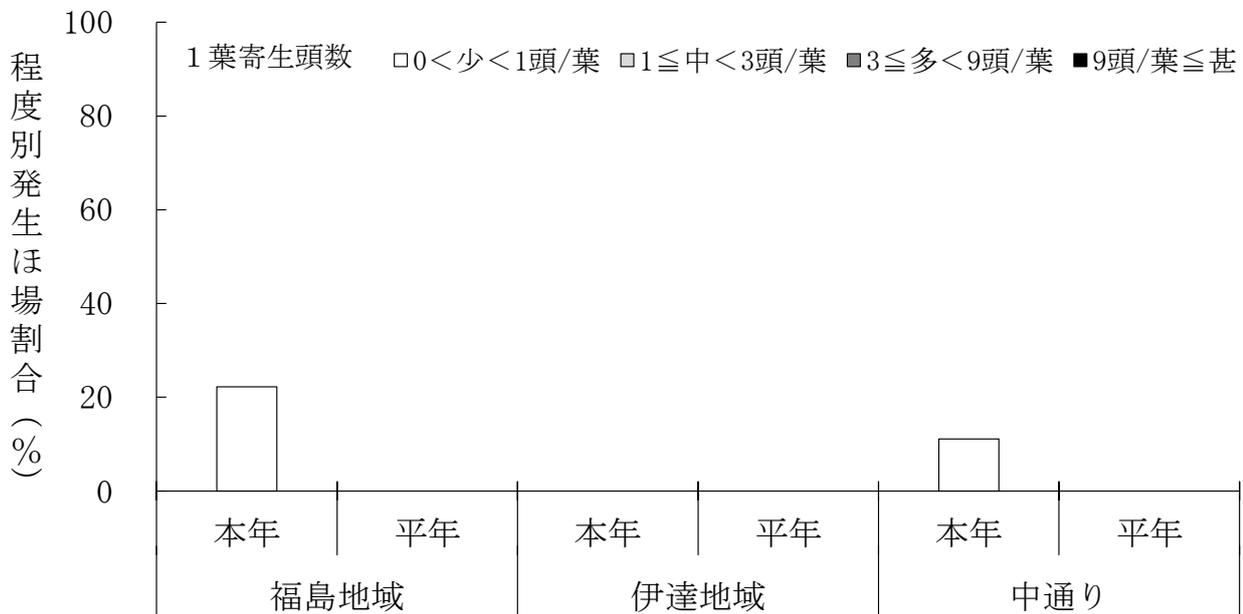


図4 ハダニ類による新梢葉の寄生状況（5月中旬）

(6) 果樹カメムシ類

モモへの飛来や果実被害は確認されませんでした。

指標植物（サクラ）への飛来は、石川町でクサギカメムシが2頭確認されました。